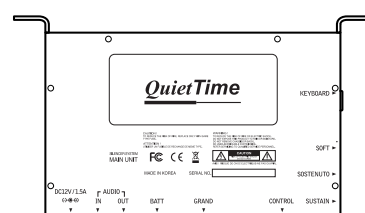
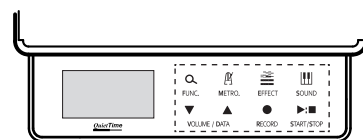


## Installation Guide

Acoustic Piano MIDI Converter With Silent Mechanism

消音ユニット取付けマニュアル アップライト

Model : QuietTime *Magic Star Pro*  
*Basic*



A Product from  
**PianoDisc®**

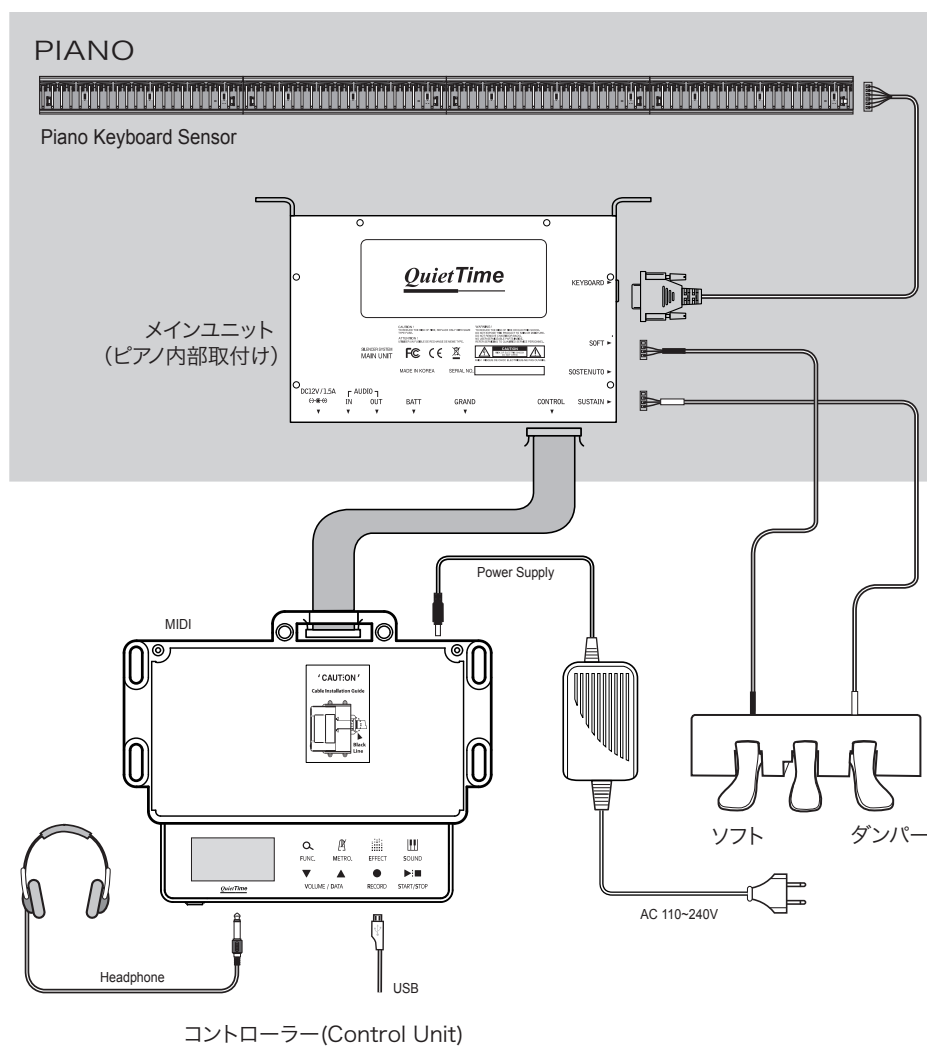
Manufacture  
**MIDMURO**

15年 04月

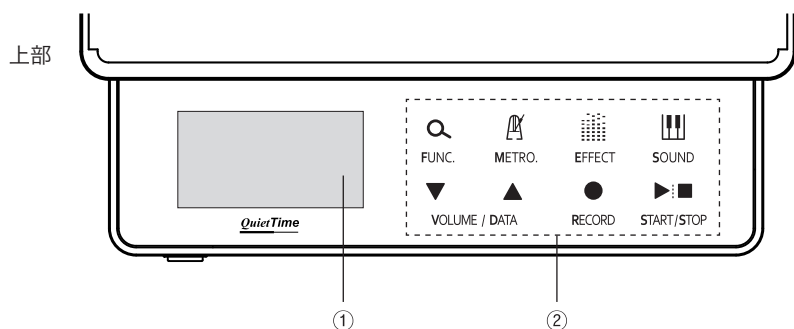
## ・ 目次

第1章 システムの接続図	2
1 システム配線図アップライト	2
2 アップライト用、消音アッセンブリー全体図	3
第2章 全体の取付の流れ	4
第3章 ミュートレールの取付け	5
1 取付のポイント	5
2 ミュートレールの加工 (STANDARD BAR)	6
3 ミュートレールの取付け	7 ～ 8
4 ミュートレールの取付け調整	9 ～ 12
5 ミュートレバーの取付け	13 ～ 14
第4章 音源部の取付け	15
1 キーセンサーの取付け	15 ～ 17
2 コントローラー、メインユニットの取付け	18 ～ 19
3 ペダルセンサーの取付け	20
4 レットオフ調整	21
第5章 システムの初期設定	22
1 初期設定	22
2 鍵盤毎の感度調整	23

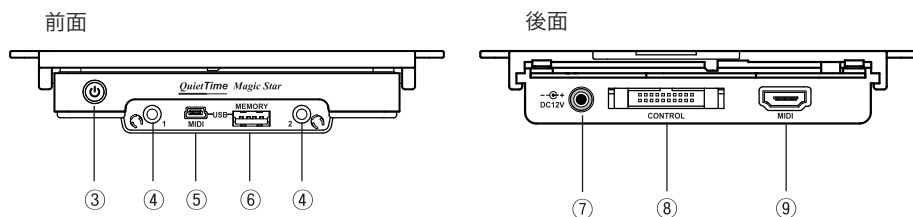
システム配線図 アップライト

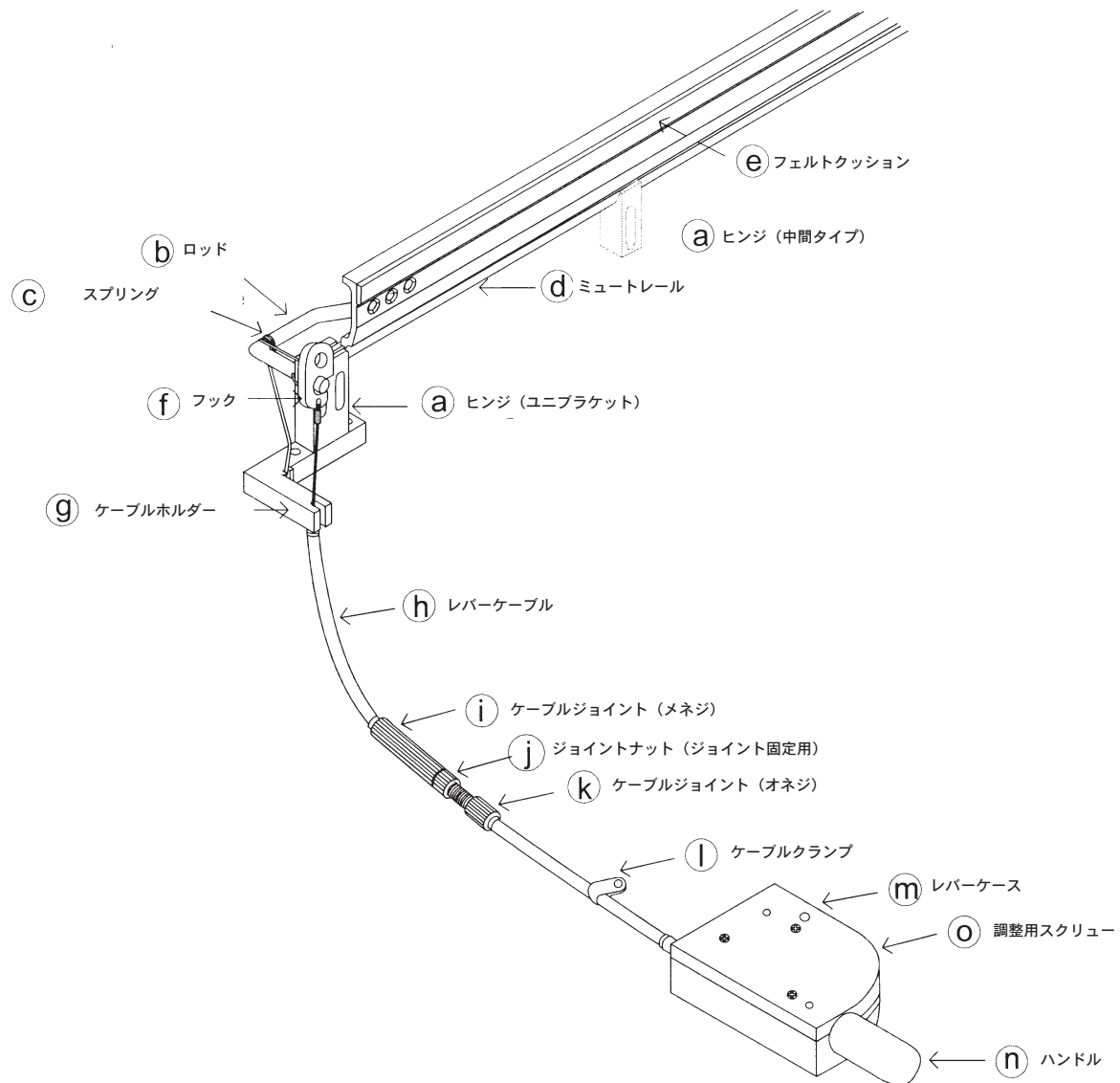


コントローラー アップライト、グランド



- ① 液晶ディスプレイ (Display) : 楽器音、各種機能の設定値表示
- ② 各種設定タッチパネル: ファンクション / メトロノーム / エフェクト  
サウンド/効果・音色・データ UP DOWN / 録音 / 再生・停止
- ③ 電源スイッチ: システム全体のON-OFF
- ④ ヘッドホン端子: ヘッドホンは2つ使えます。
- ⑤ USB PORT (Device): パソコンUSB接続  
(USB MIDI, System Update)
- ⑥ USBホスト (Memory): USBメモリースティック接続
- ⑦ DC JACK: 専用電源アダプター端子
- ⑧ CONTROL: 専用ケーブルで内部メインユニットと接続
- ⑨ MIDI: オプション販売のMIDI拡張ケーブルを繋ぎ、  
外部MIDI機器と接続





Mute Rail, Uni-Bracket & Lever A'ssy



### 1 ミュートレールの取付け

- ① 取付けアクションとミュートレールの長さ調整加工(中間ブラケット部の切り込み)
- ② ピアノに合わせてSTANDARD バーの加工をすることも有り
- ③ 本体ダンパーレールの取り外し
- ④ アクションへミュートレールの取付け
- ⑤ アクションを戻し、ミュートレールの直線性を調整 ※重要
- ⑥ ユニブラケットヘスプリング取付け、Eリング取付け
- ⑦ 消音レバーの取付け、消音位置及び開放位置の調整

※重要事項 レールの直線(ストップ時の弦までの同一距離を保つ) 開放位置でのダンパーの動きを確実に確保

### 2 音源部の取付け

- ① 鍵盤を外し、キーセンサーを仮置きし適当な黒鍵を入れ、高さ調整用のスプリングの長さなどを検討する
- ② センサープレート組立て、スプリングの取付け後に慎重にセンサーヘプレートを取付ける
- ③ 最高音部にメインケーブルを確実に差し込み、固定ネジ周辺の基準となる黒鍵を5カ所入れる
- ④ 基準黒鍵の下面とセンサーレールの上面との間隔を慎重に高さを調整する
- ⑤ 下パネルの奥、棚板へメインユニットを固定し、メインケーブルを差し込む
- ⑥ コントローラーを適宜、棚板手前へ取付け、ヘッドホーン掛けも適宜取り付け
- ⑦ ペダルセンサーを適宜取付け
- ⑧ 配線周りをきれいに仕上げる

※重要事項 センサーと拍子木の間でのメインケーブルの取付け関係位置をきれいに仕上げる

### 3 仕上げ

- ① 消音位置に合わせたレットオフ調整
- ② システムの初期設定
- ③ デジタル発音の確認、必要に応じて鍵盤毎の感度調整
- ④ ピアノ全体を組立てた後の雑音などのチェック

※重要事項 レットオフはシャンクがレールに触れる手前で確実に抜けるように調整する  
アコースティック演奏時に確実にダンパーが上がるかを確認する

## 1 取付けのポイント(重要な注意)

消音ユニットの取付においてシャンクストップのミュートレールの取付けが最も重要だと言っても過言ではありません。

ミュートレールの取付け状態が不完全であれば消音時に音もれ、アコースティック演奏時に不完全なアクションの働きなど、ピアノ演奏の根本にかかわってきます。

特にアコースティック演奏時にダンパーの働きが十分に確保される事が大事です。

カワイの比較的新しいモデルはミドルエンド部でのダンパーの働きを確保するために細心の注意が必要です。コンソールモデルなど特定機種に対して輸入者より提案する作業方法の一例もありますので、問い合わせください。

ミュートレールの取付に十分な時間を割り、納得のいく働きが出るようにしてください。

本取付ユニットには、あらかじめ数モデルの長さ加工したストッパーを用意しております。発注時に適宜ご指定ください。

Y121 (ヤマハ U1,U2用 但し旧型U2は若干短く切る必要有り)

Y131 (ヤマハU3タイプ用)

K125 (カワイ 124~127cmタイプ用、BL以降)

K132 (カワイ 132cm用、BL61,71 US50等 BL以降)

STANDARD (ノーカット、加工は技術者各自でお願いします。カワイ旧型KUはこれを加工してください。)



カワイ用はミドルエンド部のダンパーブロックスクリューが干渉しないように切り抜いてあります

- ・現場作業用に予備ストッパーが必要な方は、有償にて各ストッパー販売可能です。

### 3-2 ミュートレールの加工 (standard バー)

アルミ製のしっかりとした、ミュートレールです。  
プラキイヤーでは簡単に折れませんので、ドリルなどでしっかりと加工してください。



鉄ノコで加工します



鉄ノコで加工します



45度に角度を変えることができる鉄ノコが便利です



切りました。



切りました。



中音部ブラケットにあたる箇所も細工します。



先に切り取る範囲の縦に鉄ノコで切り込みを入れた後に根元はドリルで加工



ドリルで加工します。



3カ所穴を開けました。



これでプライヤーで折り曲げ可能



切り取りました。



ヤスリで仕上げます



きれいに仕上げましょう。



付属の黒フェルトを適宜貼ります。



これで完成!

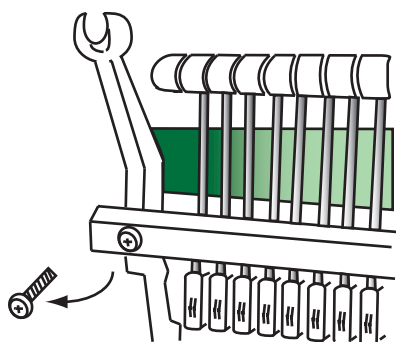
### 3-3 ミュートレールの取付け

全体の長さをチェック  
中音ブラケットの干渉時は  
前ページの切取り加工参照

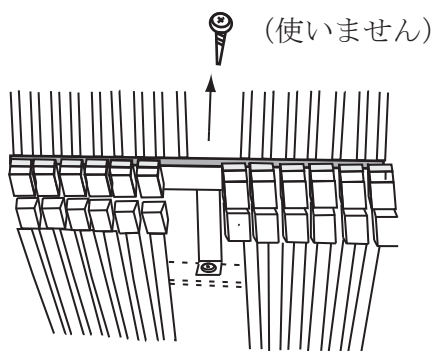


1.アクションよりダンパーレールを取り外します。(ネジ4ヶ所)

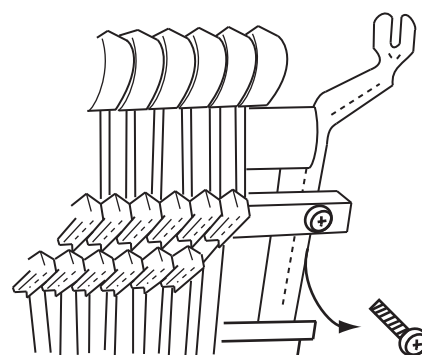
また、外したネジはミュートレール取付けに再度使用します。



・最高音部（元ネジ保管）



・次高音部



・低音部（元ネジ保管）

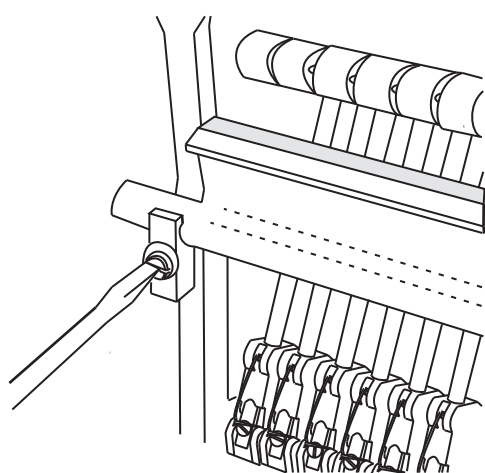
ヤマハの次高音部は元のL字金具を取り外すことなくそのまま使用します。

カワイのY字の金具は取り外し、付属のL字ブラケットと交換します。

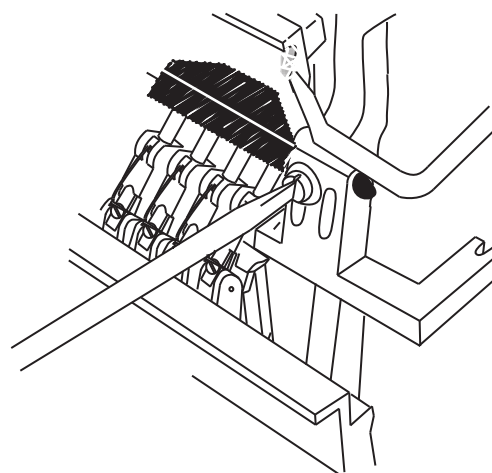
その際にセンターレールのダンパーフレンジ取付ガイドのヤマをヤスリで平らにすること。

他メーカーも状態に合わせて取り付けるか、ブラケットを適宜交換してください。

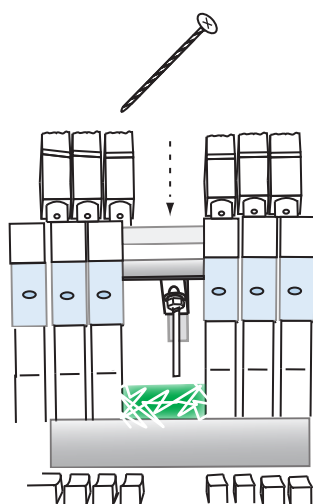




最高音側



低音側



次高音部（ダンパー側よりボルト、ハンマー側よりナット）

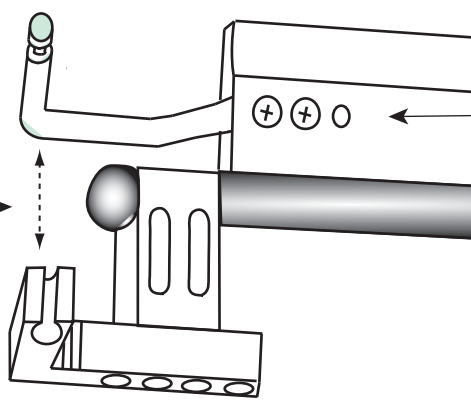


次高音部（ナットをラジオペンチでつまめます。）

- ・ ストッパーヒンジの固定穴は上下可能なように縦長になっておりますが、基本取り付け位置は穴の上部位置すなわちストッパーが低くなる位置で固定します。  
但しハンマーシャंकのハンマー寄り部分（接着部分）近くでストップさせるのがベターと考えら場合、最高音部などは若干上げ気味に取り付ける方法も有効です。

## 2. ストッパーにユニブラケットをはめます。

- ・ アクションへ取付た後できるだけ直線上に近くなるように



裏のフェルトをめくり、ネジを緩め  
ロッド位置変更可能

ネジの付け替えにて位置変更可能

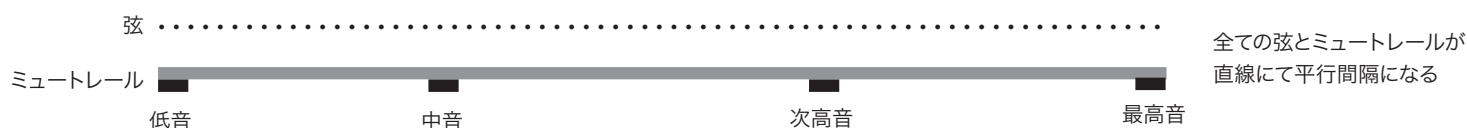
この作業はユニット取付け後、最終的に消音時のハンマーストップ位置が、全てのハンマーが均等な位置で止まることの調整となります。均等位置でのストップは、全鍵盤の均等な接近距離のレットオフになります。しかし、このストップ位置が不均一な場合、一部セクションは音が止まり、また別のセクションの一部は音もれと言った不具合が起きます。

音もれのセクションで音を漏らさないように、ミュートレールをさらに傾ける調整をすると、元々は音が止まっていたセクションでは、必要以上の広い位置でストップするようになり、また、それに合わせてレットオフをさらに広げることになりますので、アコースティック全体バランスが取りかえしが付かない状態になります。くれぐれもこの段階で慎重に調整してください。

#### 調整手順

- ① ミュートレール取付け後のアクションをピアノへ戻し、まず基準となるセクションを決めます。  
低音、中音、次高音、最高音の4セクションをチェックします。
- ② レール左端のロッドを軽く手前に引きながら、任意のハンマーのシャンクとレールクッションを密着させゆっくりとハンマーヘッドを弦に近づけて行きます。
- ③ 他のセクションと比べながら、一番早くハンマーヘッドが弦に触れるところが基準となります。  
(次高音部もしくは中音部が基準となることが多い、基準セクションはスペーサーを入れない)
- ④ 基準が決まりましたら、そこをハンマーヘッドが弦に触れた状態を維持しながら、残りの片手で別のセクションのハンマーをそっと押すと、弦より数ミリ離れた状態がわかります。
- ⑤ この数ミリ離れた距離の見当を付け、レール固定個所にスペーサーを入れ、弦よりに距離を調整することにより、各セクションのストップ位置が調整されます。
- ⑥ アクションを下ろし、スペーサーを適宜挿入、アクションを戻しチェックする作業を繰り返します。
- ⑦ 確実に全セクションで、シャンクがレールクッションに密着しつつ、ハンマーヘッドが弦に触れる状態になったことは、全ての弦を面に見立てた場合、その面に対しミュートレールが完全に平行になったということです。

真上から見た時の弦とレールの関係のイメージです。

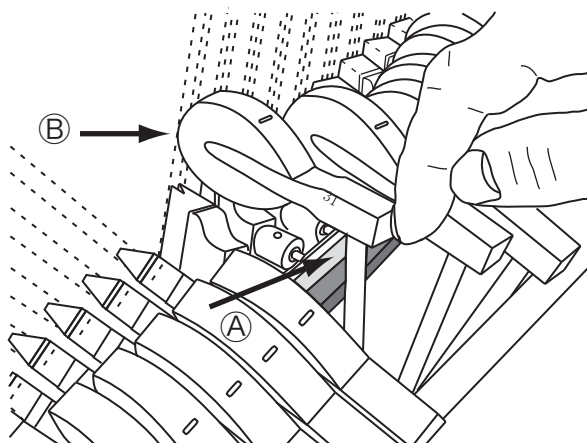


- ① レールのロッド（左端）を左手で軽く手前に引いておいた状態にします。

中音部の任意のハンマーをそっと弦に近付けながらシャンクをまずレールクッションに当てます。①A

- ② そのままの状態ですぐ弦へ近づけ、ハンマーヘッドが弦にそっと触れるまで前進させます。②B

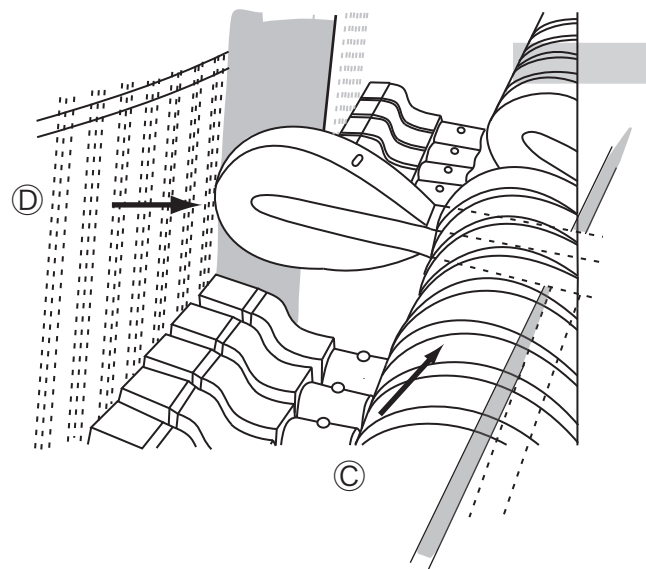
- ③ ②Bに触れた時点でレールをそれ以上前進させずに次高音部のハンマーシャンクをレールクッションまで当ててみます。



- ④ もしこの時点で次高音部のハンマーヘッドと弦にすきまがあれば、中音部が一番近いとなり、基準とします。

- ⑤ 逆に次高音部のハンマーヘッドがレールクッションに当たることなく、弦に触れた場合、次高音部が一番近いと考えられますので、今の手順の逆をします。

- ⑥ 同じように、先にレールロッドを手前に軽く弾いた状態で次高音部の任意のハンマーのシャンクがレールクッション当たり③C、なおかつ前進するとハンマーヘッドの先が弦に触れる箇所④Dでレールをストップさせて、中音のハンマーをそっと前進させて見ます。



- ⑦ 中音のハンマーシャンクがレールクッションに当たるが、ハンマーヘッドが弦に触れない場合、次高音部が近い、すなわち次高音部が基準となります。

- ⑧ ほとんどのピアノでは、次高音部もしくは中音部が基準となることが多いですが、最高音部が同じ動作で先に弦に当たる基準になることもありますので、注意深くテストしてください。

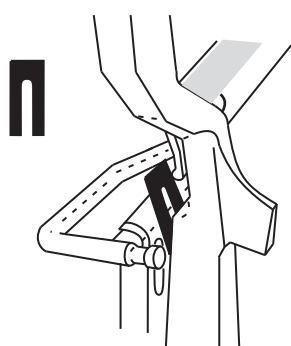
- ⑨ 基準ハンマーが決定したら他のセクションはシャンクがレールに当たるともハンマーが弦には触れていないことを確認してください。この確認作業はストッパーが弦に対して一直線になっていないことを意味します。

- ⑩ 弦に当たらないセクションはストッパーがアクションブラケット寄りに付いており、逆に弦に早く触れるセクションはストッパーが弦寄りに付いていることを必ず理解してください

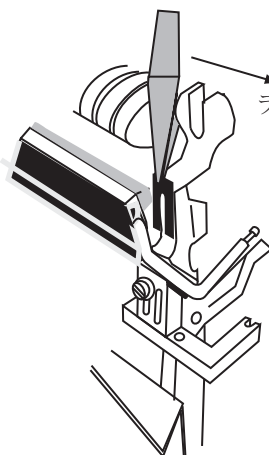
- ⑪ 次にスペーサーを利用してストッパーを直線的な取付位置に調整します。

上記の間隔確認時に離れているハンマーがどの程度なのかあらかじめ目測しておくことで作業効率が上がります。

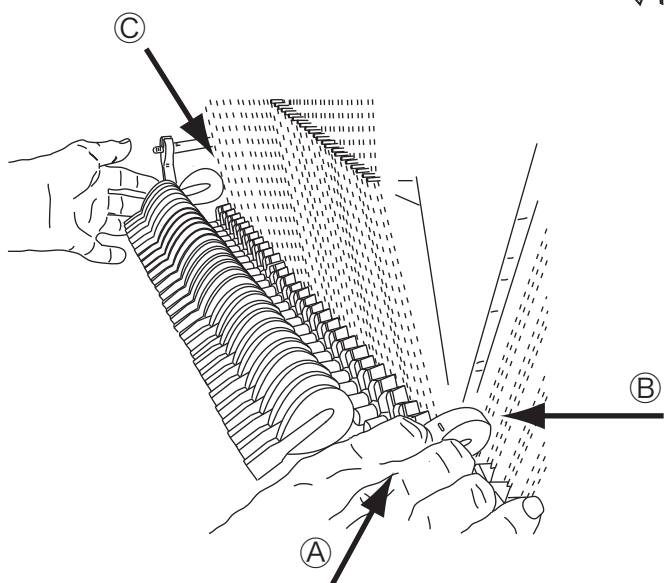
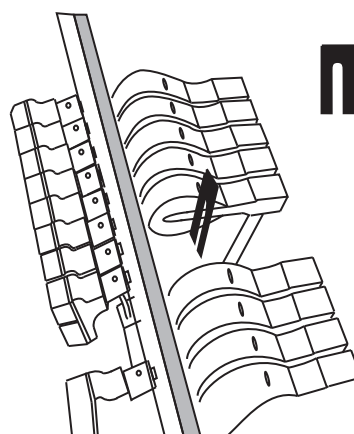
アクションをピアノから降ろしストッパーを弦に近付けたいセクションのヒンジネジを緩め  
付属のスペーサー（3mmもしくは1mm）を適宜組みあわせて距離を調整します。



低音部

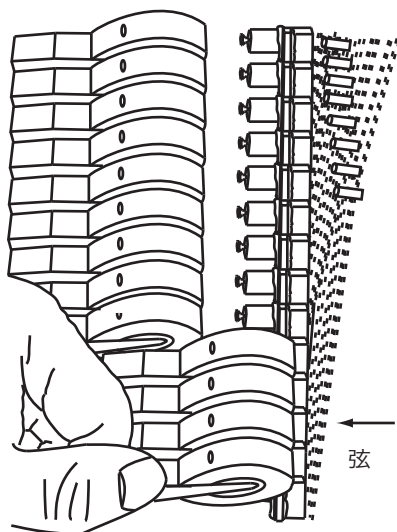


ラジオペンチです。



### チェック作業

右手の親指でシャンクをクッションへ密着させ中指で  
レールフェルト側を押さえることにより挟みこんでいます。①  
挟みこんだ状態でそっと前進させハンマーヘッドの先を  
弦に軽く触れさせます。②  
そこで停止して、左手で最低音をチェックしています。③  
もし、まだハンマーと弦が離れていれば、スペーサーで調整  
します。



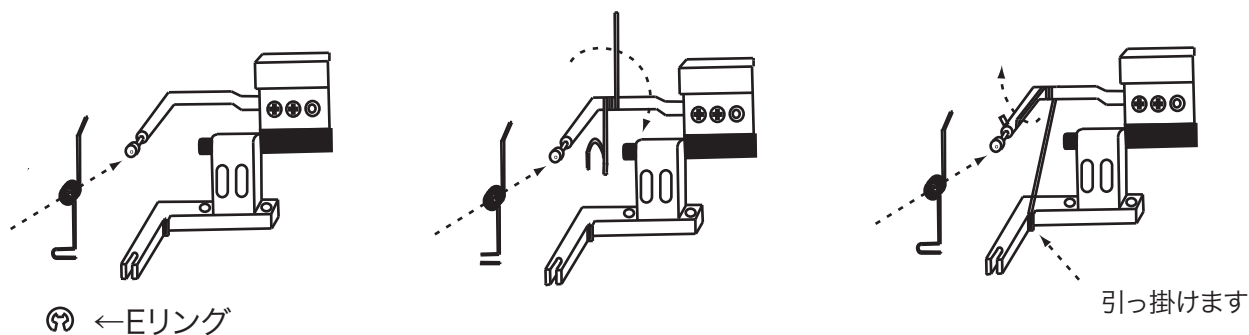
・ シャンクがスミュートレールに触れつつ、  
複数のハンマーの先が同時に弦に  
当たった状態がミュートレールの直線が  
確保されるという事になります。



(テーパースペーサーは、アクションが比較的大きく、ストッパーを余分に  
倒したいなどの時にストッパー全体にあらかじめ傾斜を付けておく事により、  
より運動量を増やすときに使用します。普段は使いません)



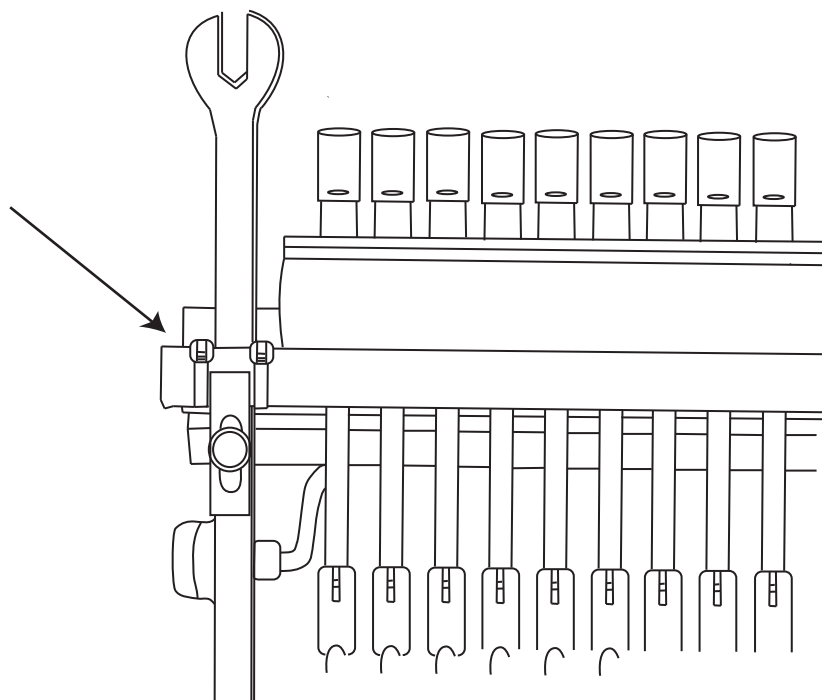
ミュートレールの前後位置調整が終わりましたら、アクションを下ろしスプリング、Eリングをセットします。



スプリングを入れた後にEリングを  
ロッドの細くなった個所の  
手前位置にセットします。

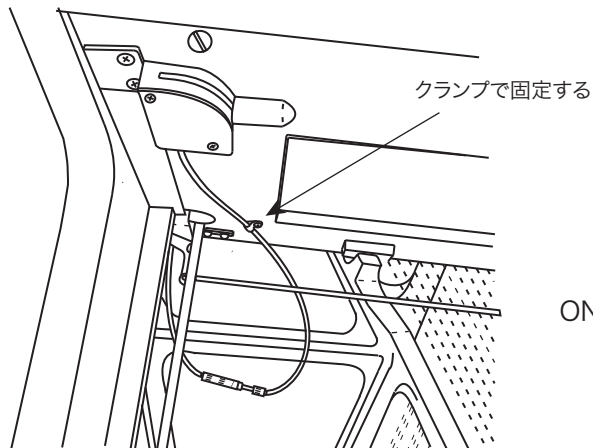
Eリングを付け易くする工具で模型のTAMIYAより4mm Eリングセッターが出ています。

- ・ ストッパーが左右にずれるのを  
防ぐために 必要に 応じて  
最高音部のヒンジ部に付属  
のケーブルタイを使用します。



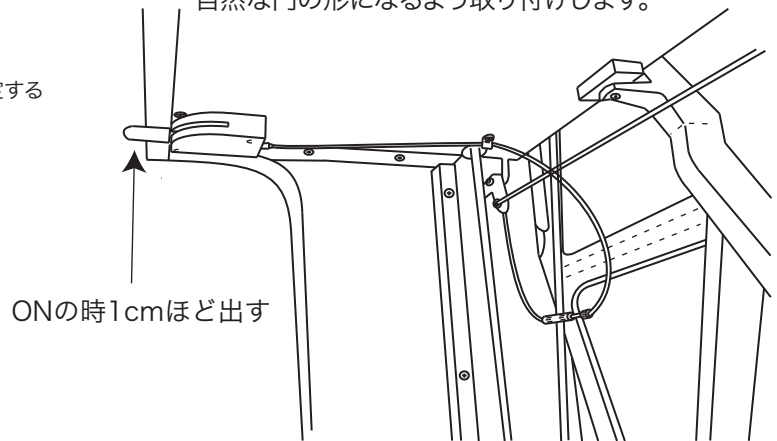
スプリングを取り付けた後にアクションを戻しますが、  
この時突き上げ棒などもはめましょう。  
アクションプラケットボルトもしっかり締めます。

ミュートレバーの取付



取付位置

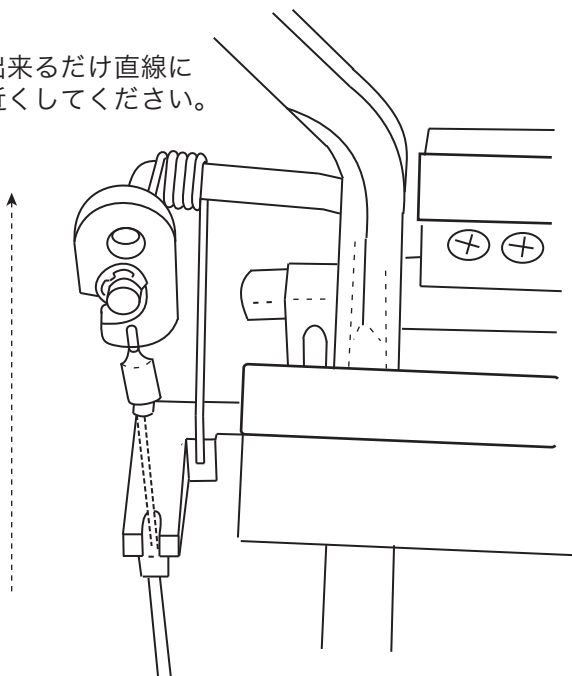
ワイヤーの動きに無理のないように自然な円の形になるよう取り付けします。



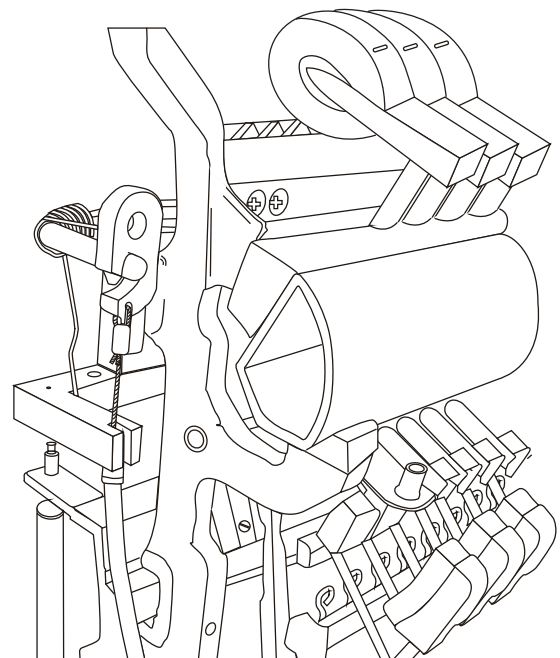
取付位置

- ・付属の木ネジにてピアノ左側につけます。前後位置は随意ですがレバーがON (手前に引いた時) 時にレバーの先1cm程タナ板から出ているくらいが良いかと思います。 ワイヤーに無理がないようにクランプで固定しましょう。

- ・出来るだけ直線に近くしてください。



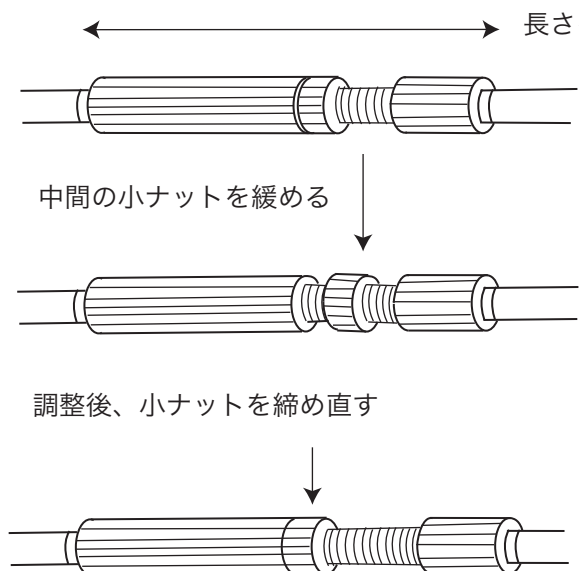
- ・フックをロッドレバーにかけます。



- ・Eリングは手前側に付くようにします。  
ユニブラケットは必要に応じて、位置を変更できます。  
ユニブラケット裏のネジにて位置変更します。

## ミュートレバーの取付け

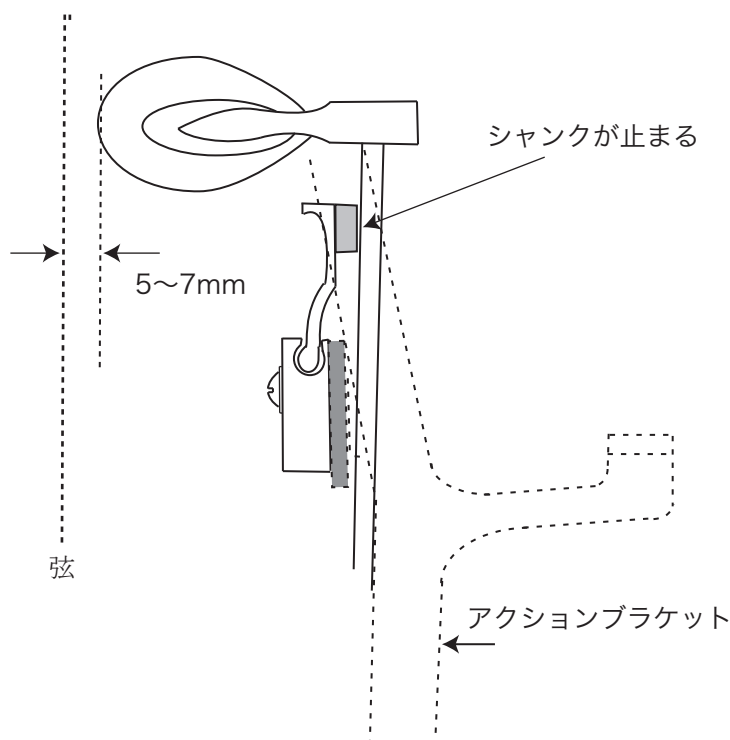
### ミュートレールの前後働き調整（引っ張り調整）



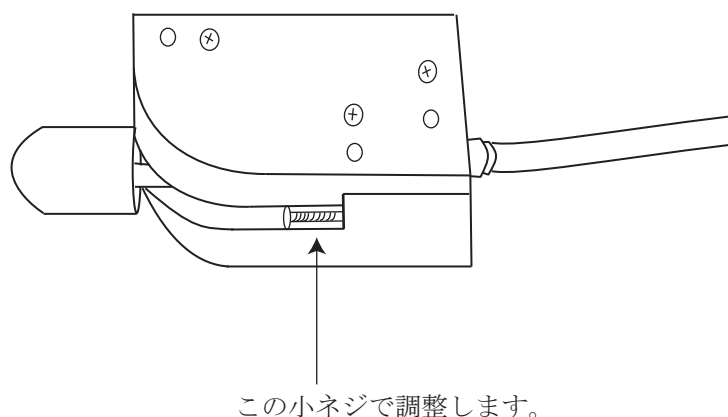
推奨位置はハンマーと弦との距離が5～7mm程度です。  
使用状態によって各々決定してください。  
スクリューの調整が済みましたら、小さいナットを  
しっかり締め固定します。  
但し演奏者の要望によりもう少し広く取ることも  
あります。

- ・ジョイントスクリューを広げるとストッパーが手前に倒れます。シャンクが早く止まる、つまりハンマーと弦のストップ距離が長くなります。

随意の位置で調整してください。



### ・消音 OFF 時のストッパーの戻り量



- ・レバーボックス内の右側に細いネジがあります。ピッチ1の+ドライバーで回してください。右に締めると奥に入る、つまりレバーが多く戻るのでストッパーがより多くダンパー側に行きます。逆に左に緩めるとレバーの戻りが少なくなるためにストッパーはハンマー寄りで止まることになります。

- ・通常演奏時にハンマーシャンクに干渉しない位置までストッパーが戻り、なおかつダンパーが十分に働く位置に戻るよう調整してください。

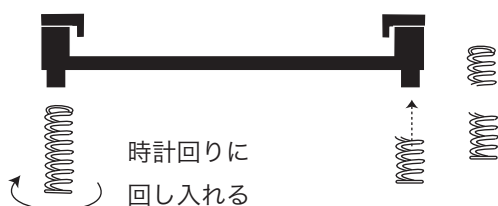
### 1. センサーを取付ます。

鍵盤を全て上げて必要であれば掃除をします。



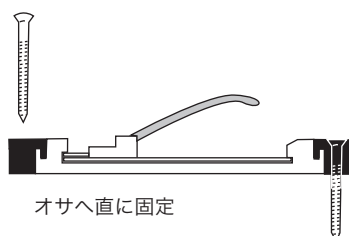
キーセンサーを袋より注意深く袋より出す

#### 1、センサープレートへスプリングをセットします。

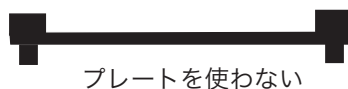


長い場合は切ります。  
切り口が鋭いので、切った方を  
プラスチックにはめます

カワイなどでスプリングなしで取り付ける場合、スプリング挿入部が不要な時はニッパー等でカットしてください。



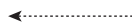
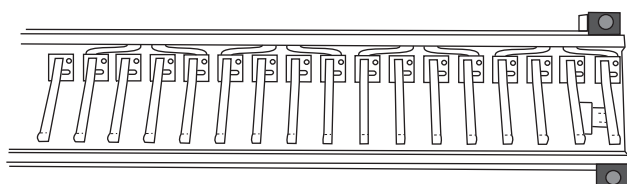
オサへ直に固定



プレートを使わない

カワイの古いモデルではセンサープレートの  
プレート部分を使わずにネジ穴のパーツだけで  
オサに直に取り付け可能です。

#### 2、センサーレールへセンサープレートを UP は5カ所、GP はオサの位置へ4～5カ所セットします。

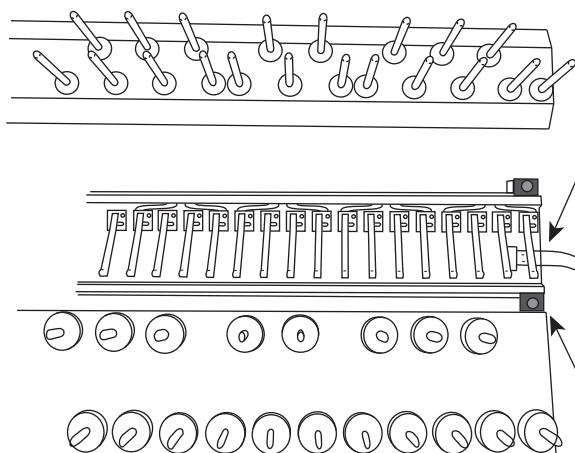


スプリングを付けたセンサープレートを  
キーセンサーへスライドさせながら、  
セットします。

5カ所の間隔をできるだけ等間隔にしたいものですが、まずキーセンサーの基盤が4つに分かれています。  
左右から2番目のプレートそれぞれを基盤の境目近くに、真ん中のプレートは真ん中の基盤の分かれ目  
近辺にスライドすると、均等間隔に近い位置に取付けることができます。(グランドはこの限りではありません)

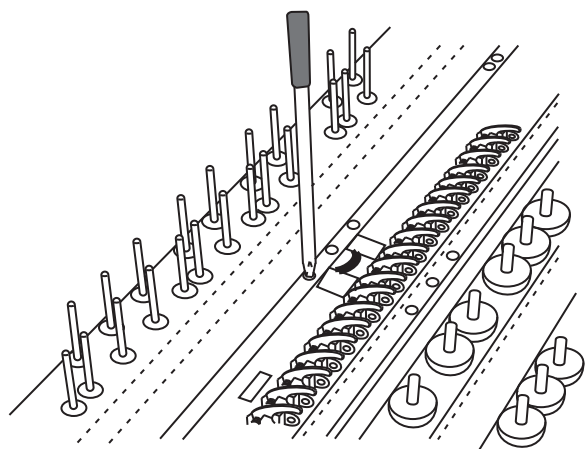
### 3、キーセンサーを棚板へ取付けます。

コネクターしっかりと差し込む



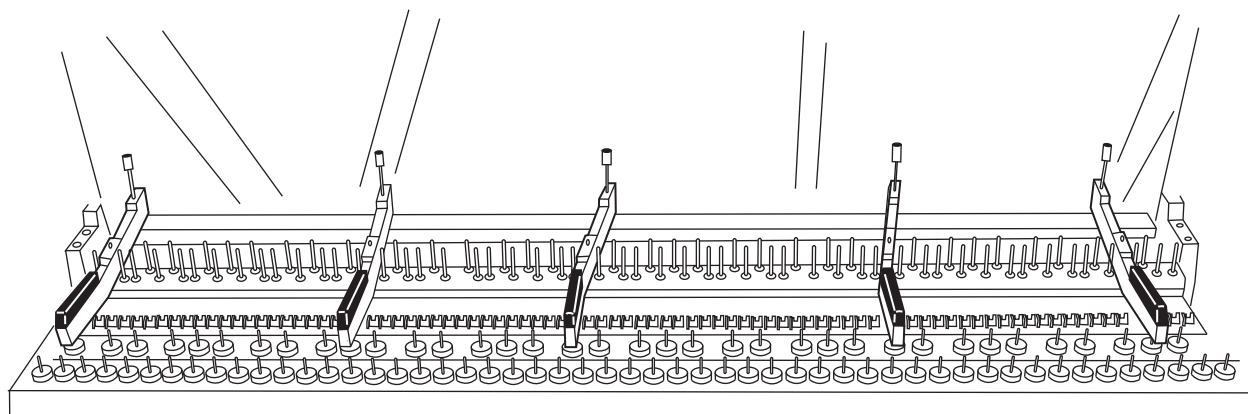
ピアノのタイプにもよりますが、  
配線を拍子木の下を通し、ウデ木と拍子木の  
ゲタの間を通すとスツキリと収まります。

センサープレートが  
フロントレールの段に触れる  
程度までフロント寄りにつける



全てのネジを少しだけ締め込みます。

高さ調整のため固定ネジ近くの任意の黒鍵を5カ所（もしくは4カ所）入れます。

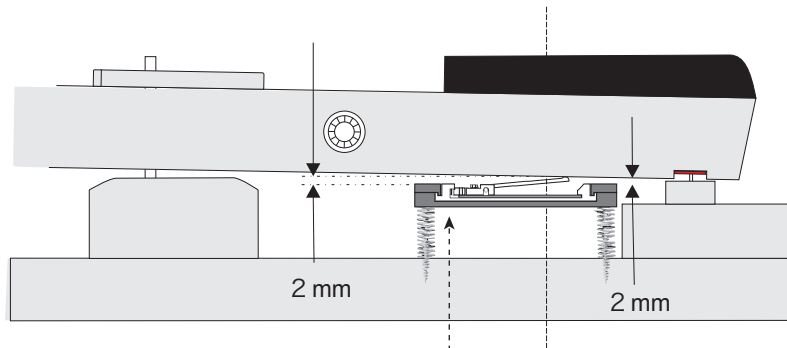


キーセンサーの高さを調整します。

センサーレールの上面と黒鍵を押し下げた時に黒鍵下面が前後とも 2 mm 程度の間隙で取付けます。

若干の誤差はキーセンサー感度の初期設定にて補正されます。

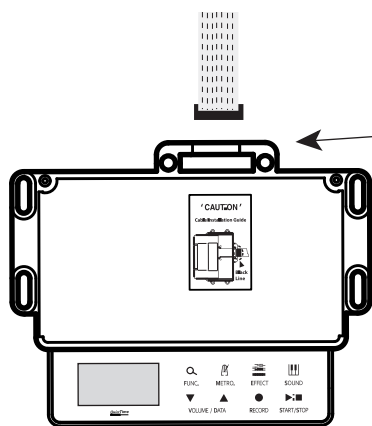
後側（センターピン側）を少し低く下げますと、アクチュエーターの支点後部の干渉を防ぐことができます。



注意！アクチュエーターの後側が鍵盤を下げた時に当たらないこと！

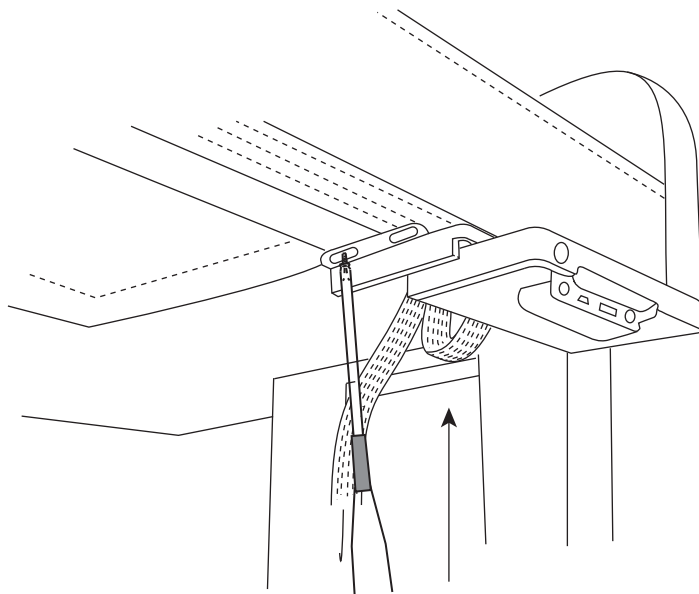
2 mm以上に離れて取り付けると鍵盤が戻る時に  
アクチュエーターの雑音がある場合がございますのでご注意ください。

## コントロールボックスの取付



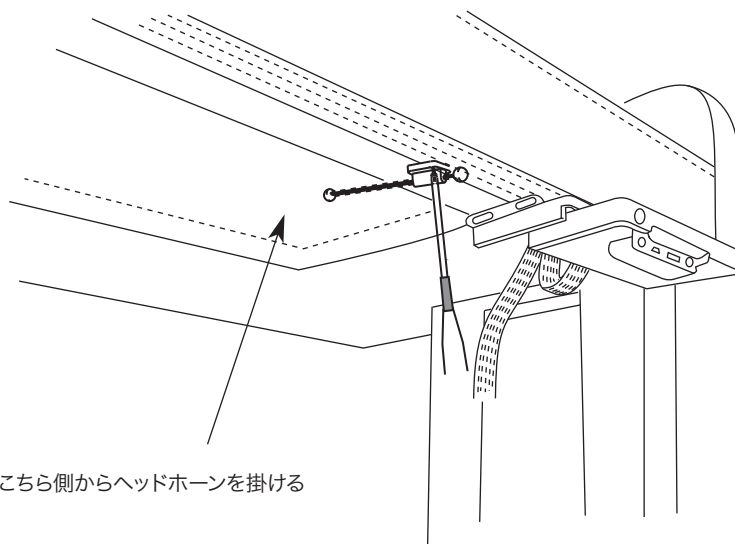
先にケーブルを上から通し、しっかりとコネクターに差し込みます。

- 1、コントローラーを右端につけます。  
出し入れがスムーズになるように  
裏のケーブルを少したるませて  
おくことがコツです。



ケーブルをたるませておく

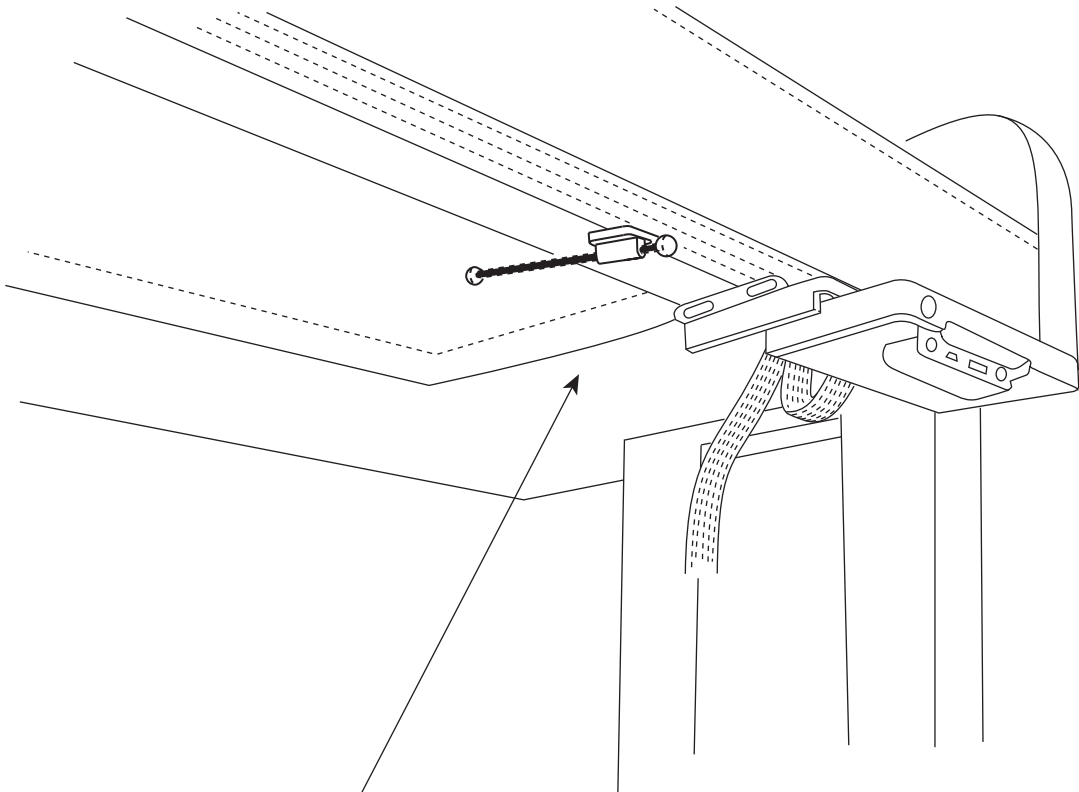
- 2、次にヘッドホーン掛けを左横につけます。  
ヘッドホーンは後側(下前の方)から  
掛けておくことをお勧めします。



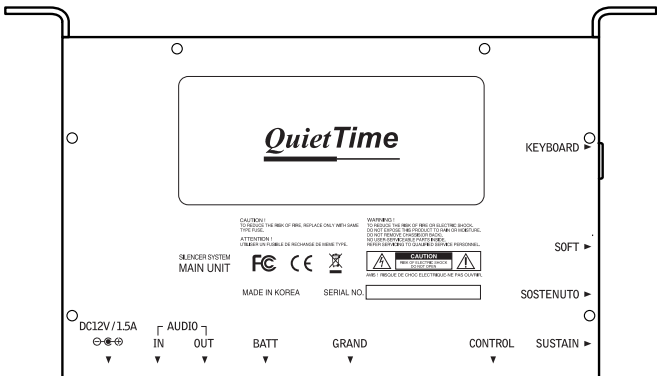
こちら側からヘッドホーンを掛ける

コントローラーを左側(低音側)へ取付けることもできます。  
その際は消音レバーやヘッドホーン掛けを取付ける位置関係を工夫してください。

メインユニットの取付



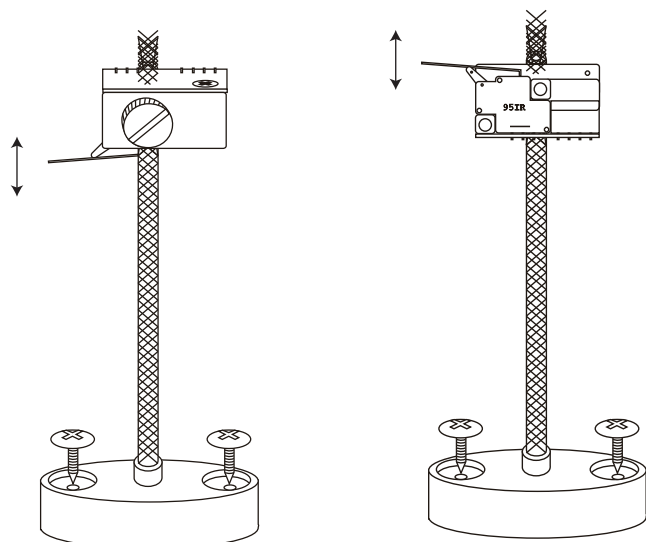
メインユニットをピアノ内側、コントローラーの後ろへ  
しっかりと取付けます。  
コントローラーケーブル、キーセンサーケーブルを  
しっかりと差し込みます。





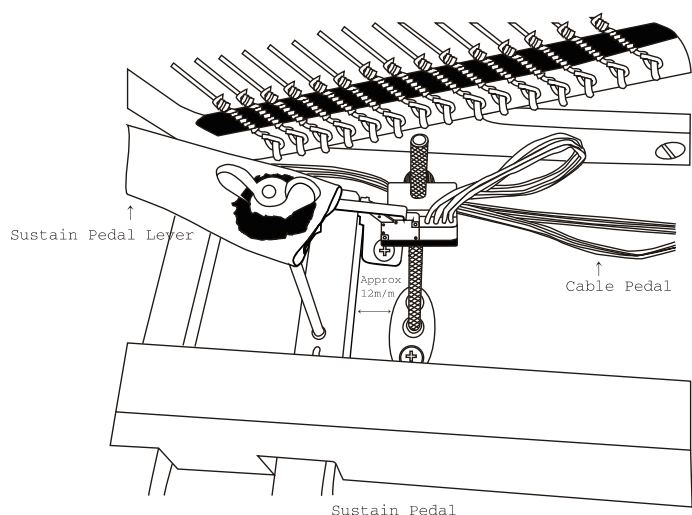
## ペダルセンサーの取付

1.ペダルセンサーは天地方向どちらにも付けることができます。

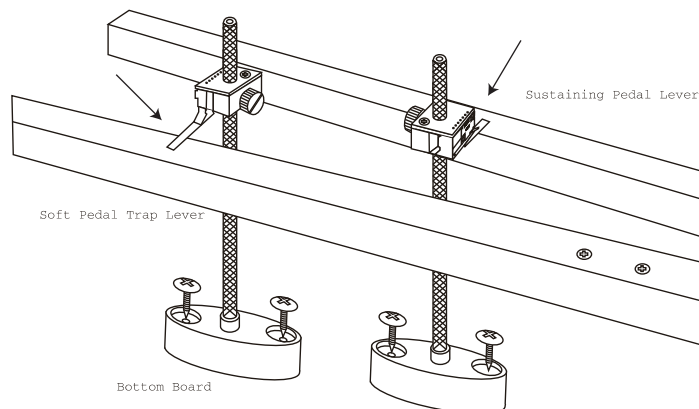


- ・単純な ON-OFF スイッチです。  
ペダル天秤棒の動きに合わせてスイッチが作動する位置を決めます。  
センサーを上下させスクリューを締めることによりスイッチのタイミングを調整します。

- ・サスティーン、ソフトコネクターを間違えないようケーブルをつなぎましょう

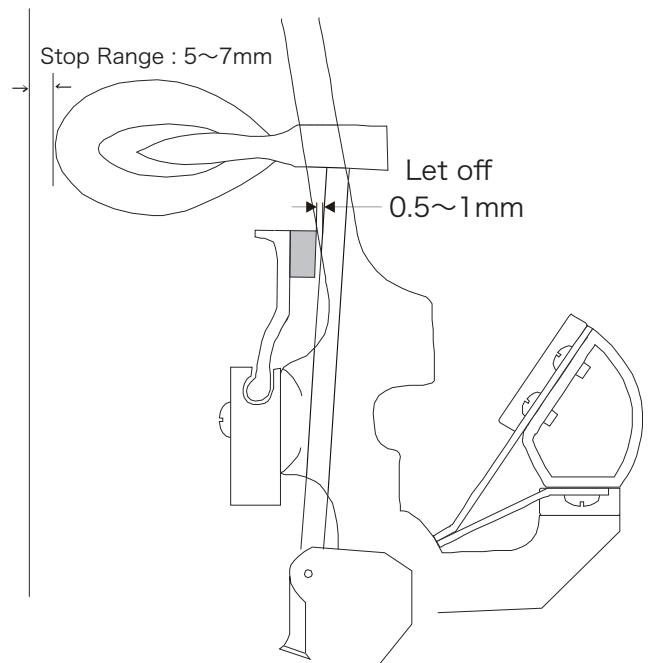


ペダル付近に取付ける



天秤棒の左側、突き上げ棒付近に取付ける場合  
スイッチが無理に押し込まれないように天秤棒と  
隙間を適宜調整してください。

- 1.ハンマーシャンクストップ方式の消音システムの機構上ハンマーのレットオフが通常より広く取る必要があります。  
通常のレギュレーティングスクリューにて調整します。  
感覚としましてハンマーが弦に対してレットオフするのではなく、シャンクがストッパーに対して0.5~1mm程度でレットオフするような感じで調整してください。



ジャックが素直に抜ける感覚をつかんでください。  
確実に抜けないと鍵盤が素直に下がり切らないため  
デジタル発音に支障をきたします。

Quiet timeは取付け後に、最適なデジタル音源再生のために、各鍵盤と各センサーの最適な状態にする感度調整が必要になります。そのため、取付け後に鍵盤センサーシステムの初期設定を行います。

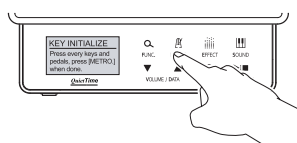
#### A. 初期設定の前にご確認ください。

- (1) 本システムの配線連結が完全であること
- (2) 消音レバーが消音位置にあること
- (3) 設定前に鍵盤が押されていないこと
- (4) レットオフ等の消音システムに合ったピアノ調整が済んでいること

レットオフのタイミングですが、シャンクが完全にストッパーの手前で抜けていることをご確認ください。ギリギリで抜けるようでしたら、鍵盤が完全に下がりませんので確実な打鍵ができません。

#### B. 初期設定モード

- (1) 電源を入れた直後にシステムが立ち上がるまでに、[METRO.]ボタンを押しつつ、次の画面が表示されるましたら、ボタンを離し入力指示画面を待ちます。



##### KEY INITIALIZE

Release button  
and wait ...

- (2) 88鍵盤を全てメゾフォルテぐらいの強さでしっかりと弾きます。

弾く順序や重複は影響しませんが必ず全ての鍵盤を弾くこと

また、重複して弾いた場合、あとで弾いた価が入力されます。

- (3) 各ペダルを一度ずつ踏みます。

- (4) 88鍵盤を弾いた後に [Metr] ボタンを押します。

保存中画面でそのまま待ちます。

##### KEY INITIALIZE

Press every keys and  
pedals, press [METRO.]  
when done.

##### KEY INITIALIZE

Memolizing ...

鍵盤データのメモリーが完了しますと次の

HOME 画面に変わりましたら演奏可能となります。

##### HOME

Preset Sound  
P1 : Piano 1

- (5) 初期設定完了後に鍵盤毎により音量のバランスが気になる場合は次の 鍵盤毎の音量バランス調整をご覧ください。

一度に初期データが入らない場合、初期データを弾く速度を少しゆっくりと全キーを弾いてください。

最高音部では鍵盤の裏の削り部分が有り、アクチュエーターを押さえないことがありますので、適宜鍵盤を加工願います。

※本説明文は、お客さま取扱説明書にも載っています。

キーセンサーの初期設定にて、各鍵盤ごとの感度は自動調整されますが、  
若干の鍵盤ごとの音量の違いが出る場合は、下記の作業にてボリュームの微調整が可能です。

### A. 鍵盤感度の個別調整

- (1) 電源を入れシステムが立ち上がる前に [RECORD] ボタンを押し  
次の画面に変わるまで待ちます。
- (2) ヘッドホーンを着用し、鍵盤を弾きながら音量バランスを  
チェックします。

#### KEY SENSE ADJ.

Number :  
Sense :  
Push [Rec.] to Finish.

調整が必要と思われる鍵盤を [▲],[▼]で調整します。  
調整範囲は 000～255 です。  
表記の数値が絶対音量ではありませんので、  
ご注意ください。

#### KEY SENSE ADJ.

Number : 57  
Sense : 130  
Push [Rec.] to Finish.

- (3) 調整が終わりましたら、再度 [RECORD] ボタンを押すと  
設定内容がメモリーされ、HOMEモードとなり、  
演奏可能となります。

#### HOME

Preset Sound  
P1 : Piano 1

### システム設定機能

- ・ HOMEモードで [FUNC.] + [SOUND] を押すとシステム  
設定画面に変わります。
- ・ [FUNC.] ボタンで設定項目を選択します。
- ・ [▲], [▼] ボタンで設定を変更します。
- ・ [SOUND] ボタンで設定がメモリーされ、HOMEモードに戻ります。

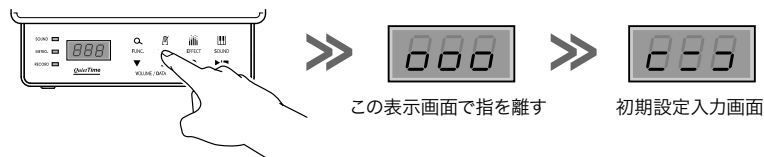
#### SYSTEM

Grand Mute :  
No Grand module

- 1, Mute On/Off (Grand Module 装着時) グランド消音On/Off
- 2, Firmware Version 表示 (変更不可、現在のシステムVersion)
- 3, Start-Up音色 : 電源を入れた時の基本音色設定 (Preset 17, Uesr-Set 16の中のひとつ)
- 4, Start-Up Volume : 電源を入れた時の基本音量 デフォルト値:60 設定範囲:0～100
- 5, Line In/Out Gain : Line In デフォルト値 : -10dB 設定範囲: 0～ -79dB  
Line Out デフォルト値 : Vol. (メインボリューム連動) 設定範囲: 0～ -79dB (一定出力)
- 6, システムの初期化: 全てのセッティングを工場出荷状態に戻す。
- 7, LCD Contrast: 設定範囲 : 0～12 デフォルト値 : 工場でセッティング
- 8, LCD Back light : 自動消灯時間 Always ON, 10秒、20秒、30秒
- 9, システム時間設定 : (Option Backup Battery装着時) 内蔵時計を調整する。
- 10, 鍵盤モード : 1 Upright用 2 Grand用
- 11, トリル時 Note off 挿入 : On/Off
- 12, MIDI Out Channel : 1～16 デフォルト値 : 1

## B. 初期設定モード

- (1) 電源を入れた直後にシステムが立ち上がるまでに、[METRO.]ボタンを押しつづけ、次の画面が表示されるまで、ボタンを離し入力指示画面を待ちます。



- (2) 88鍵盤を全てメゾフォルテぐらいの強さでしっかりと弾きます。弾く順序や重複は影響しませんが必ず全ての鍵盤を弾くこと、また、重複して弾いた場合、あとで弾いた価が入力されます。
- (3) 各ペダルを一度ずつ踏みます。
- (4) 88鍵盤とペダルを弾いた後に、再度 [Metr.] ボタンを押します。

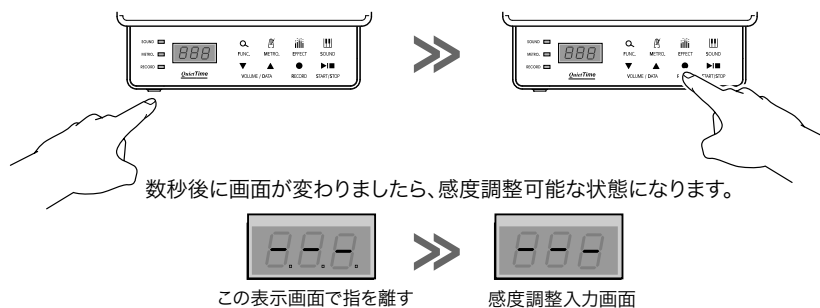
数秒間入力データをメモリーへ記録後、右の画面表示に変わりましたら、演奏可能になります。



## 鍵盤ごとの感度調整 (ボリューム調整)

キーセンサーの初期設定にて、各鍵盤ごとの感度は自動調整されますが、鍵盤ごとの音量の違いが若干出る場合は、下記の作業にてボリュームの微調整が可能です。

- (1) 電源を入れた直後にシステムが立ち上がるまでに、[RECORD]ボタンを押しつづけ、次の画面が表示されるまで、ボタンを離し入力指示画面を待ちます。



- (2) ヘッドホーンを着用し、鍵盤を弾きながら音量バランスをチェックします。



調整が必要と思われる鍵盤のボリュームを [▲],[▼]で調整します。  
調整範囲は 000～255 です。  
表記の数値が絶対音量ではありませんので、ご注意ください。

- (3) 調整が終わりましたら、再度 [RECORD] ボタンを押すと設定内容がメモリーされ、HOMEモードとなり、演奏可能となります。

